

潮流

大和の「山の道」は、日本書紀にも登場する神話と伝説に彩られた、現存する日本最古の道として有名な。過日、天理から石上神宮を経て崇神天皇陵まで、古社寺や古墳が多数点

在している街道を散策し、心と自然のたがすまいに万葉の香を偲(しの)んだ。当時の人々は何を語らなから、何の目的のためにこの街道を行き来したのかと想像すると、まるで飛鳥入

鳥取ガス株式会社取締役社長 児嶋 祥悟



歩いたあとが道になる

の息吹が聞こえて来るような心地であった。

「人間が歩いたあとが道になる」と言ったのは幾時であるが、「道」という漢字はもと「首をふら下げて歩く」の意で、シルクロードの古い習慣では、他部族の首級を傍らに田維

である。田維形の山の小山をへって清める「盛塩」は、道の神の面影をさめるものである。

道の歴史は、人間の生活史と言われるように歐道(けものみち)から始まり、生活の道、交易の道へと発展し、交通路として整備され、時代を反映しながら、

対馬を経て朝鮮海峡を渡り、釜山まで、トンネルと道で結ぶ白韓トンネル構想である。この壮大な構想が実現すれば、日本と大陸との人、物、情報の国際交流が本格化するのには必定

地球が本道にひびくことになる。日がいずれはあつて来るであろう。

私たちの祖先は、三千年以上も昔に、スンダランドと呼ばれる広大な陸地からはるかなる地を目指して陸続たて、われわれ個人レベルの渡来人と呼ばれる人々が

その模範と模範は数多く、今日にまで残っている。

私は数年前、「環日本海」の印とする象形を道と書いた。そこは処刑の場所も備えていたという。

かの有名な崇神天皇陵にえられ、道で処刑された。道は道の支配する所でもあり、神へ直接につながった所とする模範もあったよう

その模範と模範は数多く、今日にまで残っている。

海を渡って来た。二十世紀には、その海の底をトンネルという道が貫通しようとしていた。遠い祖先も私

た美しい街である。しかし、順風満帆の生活も終戦と同時にすべて失い、命からがら難民を運んで、母国を目指して引き揚

(すい) 伏に積み上げて、勝利の印とする象形を道と書いた。そこは処刑の場所も備えていたという。

かの有名な崇神天皇陵にえられ、道で処刑された。道は道の支配する所でもあり、神へ直接につながった所とする模範もあったよう

その模範と模範は数多く、今日にまで残っている。

海を渡って来た。二十世紀には、その海の底をトンネルという道が貫通しようとしていた。遠い祖先も私

た美しい街である。しかし、順風満帆の生活も終戦と同時にすべて失い、命からがら難民を運んで、母国を目指して引き揚

た。日本は戦後五十年を迎え、世界の東西冷戦構造は大きく変貌(へんまう)を遂げ、そして「二十世紀は国前に迫っている。現代を生きる私たちの足跡が次代に続く人たちの指針となり得るか

えられ、道で処刑された。道は道の支配する所でもあり、神へ直接につながった所とする模範もあったよう

その模範と模範は数多く、今日にまで残っている。

海を渡って来た。二十世紀には、その海の底をトンネルという道が貫通しようとしていた。遠い祖先も私

た美しい街である。しかし、順風満帆の生活も終戦と同時にすべて失い、命からがら難民を運んで、母国を目指して引き揚

た。日本は戦後五十年を迎え、世界の東西冷戦構造は大きく変貌(へんまう)を遂げ、そして「二十世紀は国前に迫っている。現代を生きる私たちの足跡が次代に続く人たちの指針となり得るか

た。日本は戦後五十年を迎え、世界の東西冷戦構造は大きく変貌(へんまう)を遂げ、そして「二十世紀は国前に迫っている。現代を生きる私たちの足跡が次代に続く人たちの指針となり得るか

(鳥取市)